

丸之内通信

11月1日

廣井勇博士記念日の墓参會

土木工學者として又技術家として故廣井勇博士の崇高なる人格を慕ふ人々は毎年十月一日の博士逝去の記念日東京市西郊の市營多摩墓地に参拜せられつゝあるが、本年も名井九介博士及び池邊稻生氏等の主唱により東京の人々は午後四時墓地前の茶亭玉川に會合し、久保田敬一博士の案内により一同墓前に参拜し、名井博士一同を代表して生花を供へられた。尙ほ札幌農學校時代の教え子たる前東京地下鐵道會社技師長遠武勇熊氏は墓前に於て感慨深げに次の報告をされた。

『私も達者で栗野も健康、多少政治趣味のあつた大村卓一は此程滿鐵副總裁になりました。此機會に於て御報告致します』

参拜後一同茶亭玉川に少憩して故博士を偲ぶ小話を交して午後五時頃散會した。

鐵道記念日に表彰された人々

第23回鐵道記念日に當る去月14日、鐵道省では恒

例により鐵道功勞者の表彰を行つたが其内譯をみると勅任官同待遇が9名、奏任官同待遇が30名、判任官649名、鐵道手494名、雇員21名、傭人1名、合計1,204名であるが、授賞の勅任官同待遇は次の9氏である。

監察官	池田勝三郎
工作局工場課長	紀伊 壽次
監督局技術課長	橋口 行彦
建設局工事課長	平山復二郎
工務局改良課長	後藤宇太郎
電氣局電化課長	森田 義彦
東京改良事務所長	黒田 武定
大阪改良事務所長	佐藤 鼎
信濃川電氣事務所長	釘宮 馨

コンクリート夜間講習會

日本ポルトランドセメント同業會では11月20日から22日まで3日間、毎夜6時から9時30分まで丸の内帝國鐵道協會でコンクリートに關する下記の講習會を開くことになつた。定員200名、聴講料は無料である。希望者は大阪市東區今橋1の9同會講習係宛11月15日迄に申込まれたい。

(11月20日) 最近に於ける鐵筋コンクリートの傾向工學博士田邊平學氏、セメント及骨材野村芳太郎氏
(21日) コンクリートの諸性質(物理的並に化學的工學博士濱田稔氏、施工(調合、水量、軟度)商工省技師池邊宗薫氏(22日) 施工(混和、打込、養生冬季工事及施工機械)——工學博士濱田稔氏、試験法(活動寫眞映寫)——大野和男氏。

(1) 府縣道大阪枚岡線、中河内郡布施町地内



取手・栗橋2鐵橋引上強化

未曾有の水禍に襲はれた國鐵は全國にわたり百九個所といふ驚くべき不通區間を生じその件數からいつてまさに一新記録を作つたが二十八日鐵道省では取敢ず今回もつとも被害の大きかつた上越國境地方に對して平井工務局長、井上保線課長らを派遣しその被害狀況の調査を行はしめることになつた。中でも大利根の氾濫により東北本線ならびに常磐線の大鐵橋が激流に洗はれて流失の危機に陥つた時は全省を擧げて色を失つほどでその後調査の結果、東北線では當時濁水が橋桁を越ゆること約1尺4寸、常磐線では1尺を示し、これを明治四十三年の大水害當時の最高橋桁下5尺に比較すると格段の相違で、この二大鐵橋が建設當時に比して毫も沈下してゐない事實から見て根本的建直しの必要を認め保線課では直にその計畫樹立に着手した。これは橋桁を現在より約五尺引上げようとする大計畫で兩線とも東日本の大動脈であるだけに如何なる犠牲を拂つても出来るだけ早くこの未曾有の大改良工事を完成し、國鐵交安を根本的に芟除しようと當局でみ通不は大變な意氣込である。

工學博士 笠井愛次郎氏

の逝去を悼む

我國土木工學界の元老の一人であつた正六位勳五等工學博士笠井愛次郎氏は本年6月下旬より病魔に侵され爾來療養中であつたが、9月25日遂に長逝せられた。享年79。

博士は安政4年江戸に生れ、明治15年東京工部大學土木科を卒業、翌年徳島縣に出付し南海道四國々道貫通の工事に與り、次で佐世保及吳海軍鎮守府創設並に九州鐵道會社線路建設に従事された。後日本土木會社の大阪支店長となり、33年京釜鐵道會社技師長となつて京城釜山間鐵道敷設に盡力する處があつた。39年勳五等に叙せられ、大正9年工學博士の學位を受けた。また明治30年本郷菊坂に私資を以て鐵道學校を興し一般鐵道従事員並に支那留學生の教育に勉め其後岩倉鐵道學校の創設に功あり、爾來育英事業に盡力される傍ら電氣會社化學製品會社等の重役として實業界にも重きを爲し、最近國防義會幹部の一人として國家の爲に盡瘁せられてゐた。氏は實に篤實溫厚の君子であつたが、今突然の計に接し哀悼極りないものがある。(寫眞は生前の博士)



(2) 府縣道大阪枚岡線、枚岡村地内恩智橋

